



君は太陽の王冠

〇年〇組 担任 〇〇〇〇

現在、新型コロナウイルスで世界中が大変なことになっています。この新型コロナウイルスのことから、オーストラリアの少年と、アメリカの俳優トム・ハンクスさんとのお話が話題になっていました。トム・ハンクスさんもやはり、オーストラリアで映画の撮影中、新型コロナウイルスに感染をしまい入院をしていました。

ハンクスさんの元に、ゴールドコーストに住むコロナ・デブリース君（8）から、「大丈夫ですか」と手紙が届きました。彼は、アニメ「トイ・ストーリー」の主人公の声を担当するハンクスさんのファンでした。コロナ少年は手紙の中で、学校で「コロナウイルス」と呼ばれていじめられているとも告白したそうです。



すると、米国のハンクスさんからコロナ少年へ小包が届きました。その小包と一緒に「大好きな友だちのコロナへ」という手紙が入っていて、「君の手紙で素晴らしい気持ちになった。素敵なお友だちになってくれてありがとう。君は僕の知り合いの中で唯一、コロナという名前を持っている。コロナとは、指輪、太陽、そして王冠という意味だ。このタイプライターは、君にふさわしいと思う。私に返事を書くときに使ってほしい。」とも記されていたそうです。

ハンクスさんはタイプライターの収集が趣味で知られ、その小包の中には、コロナ社製の「コロナ」のブランド名が入ったタイプライターが入っていました。コロナ君は「僕と同じ名前だ。すぐに返事を書くよ」と笑顔で語ったというお話です。

私も、子供たち一人一人を大事に接していこうと改めて思った、心温まるお話でした。

各学年の実践より 今回は、6年生の授業を紹介します。

「みんないっしょだよ」～黒柳徹子（親切、思いやり）



○ねらい

誰に対しても思いやりの心を持ち、親切にしようとする態度を育てる。

○教材の内容について

誰もが知っているであろう有名人、黒柳徹子さんのお話です。黒柳さんは、30年以上もユニセフ親善大使を務めているが、その原点となったのは、自身が通った小学校「トモ工学園」の小林校長先生の言葉「いっしょだよ、みんないっしょにやるんだよ。」です。教材には、見る・聞く・話すことが不自由な人との関わりと、世界各地にある戦争や貧困、病気等で親を失った子供たちの施設を訪問した時の触れ合いが書かれています。

○授業では

6年生の子供たちは、自他を客観的にとらえることができるようになり、相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像できるようになります。活動場所も広がり、より多様な人々と接する機会が多くなります。相手の立場に立ち、自分がどのように接したら相手のためになるのかをよく考えた言動が求められます。まず、黒柳さんの活動からインドやカンボジアの写真の子供たちが必要としているものを考えました。そして、黒柳さんの考える「みんないっしょ」とは、どんな心なのかを一人一人考え、意見の交流をしました。さらに、自分自身のこととしての「親切・思いやり」について振り返りました。学習の「振り返りカード」から紹介します。

○「自分の事ではないから関係ない」とかではなく、黒柳さんもしていたように、一人にいる子に手を差し伸べ一緒に笑い合えるようにしたい。

○6年生として、悲しい思いをしている下級生がいないようにしていきたい。

○今まで、相手のことを思いやることはできていたと思うけれど、ではなぜそれをするのかと聞かれたときに、「悲しい思いをする人がいないように」という考えは全く思いつきませんでした。

○私は、1年生のお手伝いに行って話す時は、少ししゃがむようにして笑顔で接するようにしています。あまり上からだだと怖くなると思ったからです。これからも相手のことを考えて行動します。

○私はまだ黒柳さんみたいな大きなことはできないけれど、探し物を一緒に探したり、目の不自由な人を助けたりはできるので、そういうことでもずっと続けたいです。

○授業を終えて

相手の立場を考えた上での行動について、最高学年として真剣に考えることができていました。自分にできる親切な行動について、自己を見つめ自分の生き方についての考えを深めていたと感じました。